

五代目豊竹湊太夫。音羽湊と稱して、世話語りの名人。染太夫死後文樂座の櫓下となる。

七代目竹本咲太夫。世話語りの名人。

三代目豊竹巴太夫。素人出身（是長）

五代目豊竹駒太夫。美聲出身（三國）

竹本越前大掾。初代津太夫、五代染太夫と改名。

初代竹本大隅太夫。

六代目竹本内匠太夫。

三代目竹本津賀太夫。

などを數へることが出来るが、最後に變り種の大關株。

チャリ語りの山城掾

『日本一滑稽物語』の大看板

嘉永七年、嵯峨御所に召されて、——何か珍しいものを——といふ御所望にまかせて『妹脊山婦女庭訓』を、おもしろい節をつけて、大序から大詰までを朗讀した。それが大いに御感を蒙つて、竹本山城掾の官名を賜つたのである。（而し後に藝人の名稱に國號を禁ぜられたので、山四郎と改めてゐた）慶長の昔徳川家康の御前で、赤松法印が、太平記の講釋を遣つて大喝采を博し、軍談講釋の最初だと稱されたといふ、その故智を學んだのもあらうか。

『日本第一滑稽物語、竹本山城掾藤原兼房』といふ大看板を出して、赤の袴を着て、赤い見臺を控へ、坊主頭で床へ上つた、或時は

被布を着たりしてゐた。

◇
チャリ物が専門だから自作が多い。元治元年に三世長門が死んだ時にも『朝嵐冥途の飛脚』と題して長門の冥途物語といふやうなものを上演して喝采を博した（北の新地の芝居十月興行）また北國で尾上多見藏を助けた話といふのや、自分が武士に變装した喜劇物なともある。

◇
文化二年に生れて明治十四年十月二十二日、八十二歳で歿する時、卒中で、グウ／＼と大駢をかいてそのまゝ死んでしまつたといふいかにもチャリ語りの終焉らしい最期だつたといふことだ。

◇
京都の五條阪の産れで、大阪では大寶寺町中の町に住んでゐた。

チャリ淨瑠璃のこと

語つた人、作つた人

チャリ淨瑠璃の起源だといふ説によると、元文元年三月四日初日で豊竹座に上演された、並木宗輔作『和田合戦女舞鶴』の四段目の口で、豊竹河内太夫が、鶴ヶ岡別當阿奢梨が手負の眞似して、追手を欺くといふ條がある、そこを極めて滑稽的におもしろく語り活かしたので大好評をとつた。由來——阿奢梨場と呼ぶべきを、阿を略して『シヤリ場』やがて『チャリ場』に轉訛したといふのだが……如何だか。

◇
近松の戯曲には、近松の友人で、作者と道化役者を兼ねてゐた金子吉左衛門をモデルにしたやうな、道化役、所謂チャリ役が澤山に